

# 「流域治水プロジェクト(仮称)」の背景

**課題** 気候変動による水災害リスクの増大に備えるためには、これまでの河川管理者等の取組だけでなく、**集水域から氾濫域にわたる流域に関わる関係者が、流域治水対策を主体的に取り組む社会を構築**する必要がある。

**対応** ◆河川・下水道管理者等による治水に加え、**あらゆる関係者（国・都道府県・市町村・企業・住民等）により流域全体で行う治水「流域治水」へ転換**することによって、施策や手段を充実し、それらを適切に組合せ、加速化させることによって効率的・効果的な安全度向上を実現する。

◆併せて、自然環境が有する多様な機能を活用したグリーンインフラを、官民連携・分野横断により推進し、雨水の貯留・浸透を図る。

## 氾濫を防ぐための対策 ～ハザードへの対応～

### (しみこませる)※

雨水浸透施設（浸透ます等）の整備  
⇒ 都道府県・市町村、企業、住民

### (ためる)※

雨水貯留施設の整備、  
田んぼやため池等の高度利用  
⇒ 都道府県・市町村、企業、住民

### ダム、遊水地等の整備・活用

⇒ 国・都道府県・市町村、利水者

### (安全に流す)

河床掘削、引堤、放水路、砂防堰堤、遊砂地、  
雨水排水施設等の整備

⇒ 国・都道府県・市町村

### (氾濫水を減らす)

堤防強化等

⇒ 国・都道府県

※グリーンインフラ関係施策と併せて推進

## 被害対象を減少させるための対策 ～暴露への対応～

### (被害範囲を減らす)

土地利用規制、高台まちづくり  
⇒ 国・都道府県・市町村、企業、住民

### 二線堤等の整備

⇒ 市町村

### (移転する)

リスクが高いエリアからの移転促進  
⇒ 市町村、企業、住民

## 被害の軽減・早期復旧・復興のための対策 ～脆弱性への対応～

### (避難態勢を強化する)

ICTを活用した河川情報の充実  
浸水想定等の空白地帯の解消  
⇒ 国・都道府県・市町村・企業

### (被害を軽減する)

建築規制・建築構造の工夫  
⇒ 市町村、企業、住民

### (氾濫水を早く排除する)

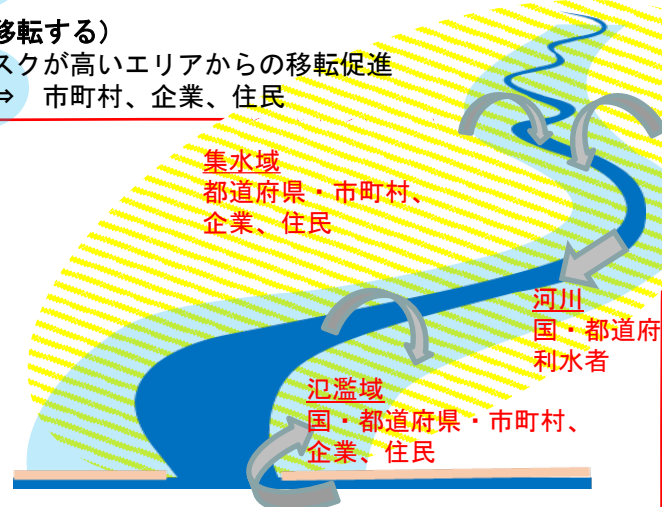
排水門の整備、排水ポンプの設置  
⇒ 市町村等

### (早期復旧・復興に備える)

BCPの策定、水災害保険の活用  
⇒ 市町村、企業、住民

### (支援体制を充実する)

TEC-FORCEの体制強化  
⇒ 国・企業



凡例

河川での対策

集水域での対策

氾濫域での対策


河川管理者以外の対策

# 「流域治水プロジェクト(仮称)」の概要

- 現在の整備水準では、気候変動により激甚化・頻発化する水災害に対応できない。
- そのため、全国の一級水系を対象に、早急を実施すべき具体的な治水対策の全体像を、都道府県や市町村と連携して検討し、「流域治水プロジェクト(仮称)」として提示していく予定。

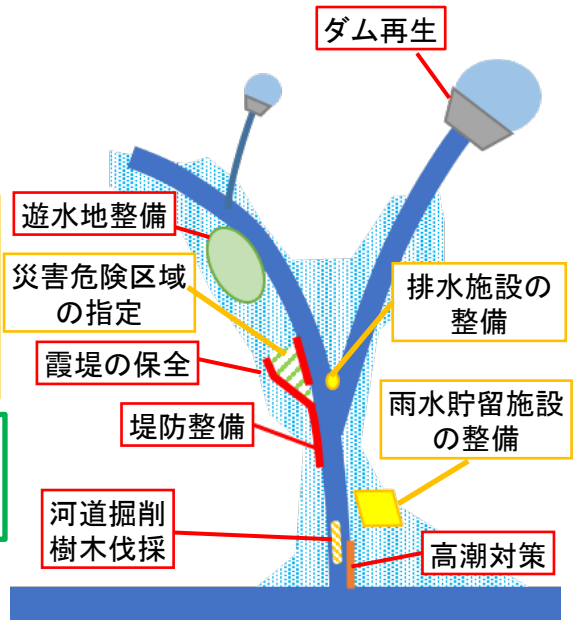
## 全国の各河川で「流域治水プロジェクト(仮称)」を公表

【イメージ】 ○○川流域治水プロジェクト

- ★戦後最大(昭和XX年)と同規模の洪水を安全に流す
- ★  … 浸水範囲(昭和XX年洪水)

(対策メニューのイメージ)

- 河川対策**
  - ・堤防整備、河道掘削
  - ・ダム再生、遊水地整備 等
- 流域対策(集水域と氾濫域)**
  - ・下水道等の排水施設、雨水貯留施設の整備
  - ・土地利用規制・誘導(災害危険区域等) 等
- ソフト対策**
  - ・水位計・監視カメラの設置
  - ・マイ・タイムラインの作成 等



## 流域における対策事例について

(事例) 校庭を活用した流域貯留施設



土手を整備し、貯留容量を確保

貯留時の様子



(事例) 浸水範囲を減らす二線堤の整備

